

# 知床半島における哺乳類等の モニタリングについて

知床森林生態系保全センター 清水 晴彦・北原 廉也

➤ **目的**  
2009年に開始し、現在では、「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画」の調査項目として、**哺乳類等の生息状況の記録と外来生物の侵入状況のモニタリング**を行うことで、生態系の保全状況について評価する指標の一つとなっています。

➤ **調査方法**  
斜里側と羅臼側の2ヶ所に、夏期と秋季において林道沿いの立木に計5つのセンサーカメラを設置し、撮影データを収集しています。



知床隣接地域の主な哺乳類の生息状況について



撮影頻度の変化

➡ 2009年からほぼ横ばい     
 ➡ 2018年より微増     
 ➡ 2020年より増加     
 ➡ 2009年からほぼ横ばい



撮影頻度の変化

➡ 2020年より微増     
 4~5年に一度撮影される     
 ➡ 2011年からほぼ横ばい     
 ➡ 2018年より微増

- 2009年からのモニタリングで哺乳類は15種、鳥類は18種撮影されており、ヒグマ・エゾシカ・キタキツネ・エゾタヌキ・エゾリスは撮影頻度上位5種で、2011年から毎年確認されています。
- 大きく撮影頻度が低下している在来哺乳類はいませんでした。このことから、正確な個体数は把握できていませんが、2009年より哺乳類相に大きな変化が見られないと考えられます。

外来種について

外来生物の撮影枚数 (単位: 枚)

種	調査地	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
アメリカミンク	斜里側	0	0	2	0	0	5	5	2	0	0
	羅臼側	1	0	1	0	1	2	1	0	3	1
アライグマ	斜里側	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	羅臼側	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

■:本調査での初確認年



特定外来生物に指定されているアメリカミンクとアライグマが確認されていますが、撮影頻度が低いことと、主な在来哺乳類の撮影頻度が大きく低下していないことから、現時点での生態系への影響は低いことが考えられます。

展望

今回の結果では、哺乳類相に大きな変化がないことが推察されましたが、特定外来生物であるアメリカミンクが2018年より毎年確認されていることから、今後も保全状況について注視していく必要があるため、本モニタリングを継続的に実施していきたいと考えております。